

オーディオドラマ用脚本

# テーブルの下のきらきら

景山伸子ナデイア

登場人物一覧

加藤はるか（33）主婦  
加藤正樹（35）はるかの夫  
加藤結（4）はるかの娘  
国松若菜（33）はるかの友人

はるかM「地震なんて自分の周りでは起こらない。怖いから、そう思い込もうとしてたのかもしれない」

カフェの店内音楽。

若菜「同級生の坂本いたじやん。野球部の」

はるか「うん」

若菜「亡くなつたんだつて。先月の地震で。結婚してあつちに住んでたらしい⋮⋮」

はるかM「高校三年の夏、隣の席だつた坂本くん。はじめて地震が自分ごとになつた」

ドンと物を置く音。

はるか「水はひとり一日三㍑、三日分はオツケー。次はトイレと防災食か」

結「ままみてーきらきら」  
はるか「結、壁にシール貼つたの！？」

結 「きれいねー」

はるか 「ノートについて言つたのに」

結 「おそといきたい。ままいこー」

はるか 「夕方だから明日。あ、これ見て」

風鈴を鳴らす。

結 「わあ」

はるか 「風鈴。この音聞くと涼しくなるから  
夏に飾るんだよ」

ドアが開く。

正樹 「ただいま。うわつ、何この荷物」

はるか 「防災用の水」

結 「ぱぱ！」

正樹 「ただいま。（はるかに）通れないよ」

はるか 「通れるよ。ちよつと狭いけど」

結 「みてー」

風鈴が鳴る。

正樹「おー風鈴」

はるか「ねえ正樹。南海トラフって、どう思う？」

正樹「南海トラフ？ どうした急に」

はるか「少しは対策しておこうかなって」

正樹「まあどのスパンで見るかで確率は変わるよな」

はるか「三十年で八十%だつて。だから水買つたの。トイレと防災食はこれから」

正樹「そんな焦らなくとも」

はるか「いざつて時に後悔したくないもん」

正樹「…とりあえず水、移動しようか。ここにあると危ないかも知れないし」

鳥の囀り。

パソコンのキーを叩く音。

はるか「あー、コーヒーカップにもシール貼

つてゐる。起きたら言わなきや」

コーヒーをカップに注ぐ。

はるか「正樹。はいコーヒー」

パソコンのキーを叩く音が止まる。

正樹「はるか、ちよつといい？」

はるか「ん？」

正樹「先月のカード明細、防災用品の合計出してみた。さすがに買いすぎじやない？」  
はるか「でも、家族を守るには必要でしょ」  
正樹「防災グッズたくさん買うのに冷蔵庫空なのは守ること？」

はるか「あ：：昨日はバタバタして買い物行けなくて」

正樹「最近ずっとそんなだよ」

はるか「それは」  
正樹「今をおろそかにしたら意味ないんじや

ないかな」

はるか「⋮⋮」

正樹「防災も大事だけど、いつ来るかわから  
ない地震のことより今週のことを行  
はるか「（遮り）一気に言わないでよ！」私

だつて考へてる」

結「けんかしてゐるの？」

はるか「ごめん。起こしちやつた？」

正樹「⋮⋮ちよつと出でくる」

ドアの開閉音。

はるか、ため息。

はるか「家のなか揺らしてどうするの⋮⋮結、  
テレビでも見ようか」

子供向けアニメの音楽。

結「ゆいがまほうかけてあげる。ままげんき  
になあれ！」

はるか「⋮⋮結」

洗い物をしている。

時計の針がカチカチと進む。

結「おそとくらいー。ぱぱまだあ？」

はるか「そろそろ帰つてくると思うよ。さつ

き連絡来たから」

地震アラート音。

はるか「え⋮⋮地震！？」

ガタガタと揺れ、食器が割れる。

はるかと結の悲鳴。

はるか「テーブルの下へ！⋮⋮え、停電？」

結「まま⋮⋮」

はるか「大丈夫、大丈夫だから」

揺れがおさまる。

はるか「正樹に電話……あ、こういうときは  
救急車の連絡が取れにくくなるから電話は  
ダメだ」

深呼吸。

はるか「LINEのアイコンを無事の画像に変  
更。ダウンロードして良かつた……震  
源地、結構近いんだ……ここは震度5」

ドアが開く。

正樹「ふたりとも無事か！？」

はるか「正樹！」

結「ぱぱ！」

正樹「良かつた。あー、食器割れるな」

はるか「怪我してない？」

正樹「大丈夫。LINEしようとしたらアイコ

ンに無事つて出てて安心した  
はるか「変えておいて良かつた」

結「ぱぱこつちきて」

正樹「テーブルの下？」

結「うん」

はるか「スマホで足元照らすよ」

正樹「テーブルの下だといつもと景色が変わ  
るな⋮⋮今夜は余震があるかもしれない」

結「だいじょうぶ、だいじょうぶだから」

はるか「それ私の真似？」

正樹「ママが守ってくれたんだな」

シールを剥がし、貼る音。

はるか「結どうしたの？」テーブルの下にシ

ールなんて貼つて」

結「きらきら。にこちやん」

はるか「シール見るとにこつて笑顔になるつ  
てこと？」

結「うん！」

正樹「確かにテーブルの下から出られない時こういうのあるといいかもしない」

はるか「私……」

正樹「どうしたはるか？」

はるか「守るつてなんだろうって」

正樹「え？」

はるか「買いすぎでも防災用品用意しておきたかつたし、シールいろんなとこに貼らいでよつて思つたけど……」

正樹「……結、一枚シールちょうどいい」

結「はい」

正樹「ありがと。パパはここに。どう？」

笑い出すはるかと結。

はるか「なんで自分の顔に貼るの？」

正樹「笑った」

はるか「え……」

正樹「家族のために一生懸命なのはわかつて

るから。スーパーとか色々行つてきた」

はるか「買つてきてくれたの？」

正樹「備えと日常、どっちも大事だなつて」

はるか「…ありがとうございます」

正樹、窓を開ける。

正樹「窓開けておこう。クーラーつくまで」  
はるか「正樹。顔のシールもらつていい？」

テーブルの下に貼りたい」

結「ゆいも！」

正樹「じやあ、みんなで貼るか」

結「はるー」

はるかM「テーブルの下で輝くシールを見て  
思つた。この笑顔を守りたいから備える。  
家族と一緒に」

遠くで風鈴が鳴る。